



# 『東北圏だより』

## 福島復興・再生加速への取組について

福島復興局

東日本大震災から4年が経過しました。福島県では、平成26年4月に田村市、10月には川内村（一部）における避難指示の解除、平成27年3月に常磐自動車道の全線開通、平成27年4月には広野町の「福島県立ふたば未来学園高等学校」の入学式が行われる等、着実に一步一步、前に進んでいます。

一方、東京電力福島第1原子力発電所事故による影響で、今もなお約11.8万人の方々が県内外での避難生活を余儀なくされるなど、依然として厳しい状況が続いていることも事実です。

避難されている住民の方々の帰還に向けた取組みなど最近の復興庁の取組をいくつかご紹介します。

### 【福島復興再生特別措置法の改正】

福島復興再生特別措置法について、避難されている住民の方々が円滑に帰還できるよう、①一団地の復興再生拠点整備制度の創設、②帰還環境整備交付金の創設、③事業再生を支援するための課税の特例などを盛り込んだ改正案を国会に提出し、平成27年4月に成立しました。

### 【福島12市町村の将来像に関する有識者検討会】

避難されている住民の方々が今後の生活の見通しを検討するための環境を整えるため、避難指示等の出た12市町村の将来像を中長期かつ広域的な視点から作成するとともに、その将来像の実現に向けた課題を整理して、今年の夏頃までに提言をとりまとめる予定です。

福島復興局としては、福島復興再生特別措置法の改正により新たに創設された制度も活用し、福島の復興に向け、職員が一丸となり現場主義で取り組んでいきます。

また、福島県の復興の状況については、福島復興局のHPにおいて、「福島の復興のあゆみ」や「福島復興局からの復興だより」としてご紹介しておりますので是非ご覧下さい。

- 福島の復興のあゆみ：

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/20140305095138.html>

- 福島復興局からの復興だより：

<http://www.reconstruction.go.jp/portal/chiiki/20140313162404.html>



▲常磐自動車道の全線開通（3月）



▲第1回福島12市町村の将来像に関する有識者検討会議（12月）

## 「東北六魂祭2015 秋田」が開催されます！

東北運輸局

東日本大震災からの復興を目的に2011年7月に仙台市で開催された「東北六魂祭」は、その後盛岡市、福島市、山形市で開催され、仙台市では37万人、盛岡市24万人、福島市25万人、山形市26万人と、それぞれ予想を上回る来場者数を記録しました。

また、経済効果も大きく、ある試算によると仙台市で約103億円、盛岡市で22億円、福島市で37億円、山形市で27.5億円にも及んだとされており、今では、東北の復興を願う一大イベントとして定着しています。

5月30日～31日に開催される2015年の東北六魂祭の舞台は秋田市です。六魂祭で初めて、地元「竿燈まつり」の提灯に灯りをともすこととなっています。東北復興への想いを乗せた6つの祭りの魂が秋田に集い、東北の輝きを、日本へ、世界へと発信し、訪れた皆様とも心をつなぐことでしょう。

この東北六魂祭も、翌年の青森開催で東北を一巡することとなりますが、東北六県が一体となって、復興そしてさらなる発展に向けた様々な取組みの一環としての役割を十分に発揮しているところで



▲青森ねぶた祭



▲盛岡さんさ踊り



▲仙台七夕まつり



▲秋田竿燈まつり



▲山形花笠まつり



▲福島わらじまつり

## 推進室の一員となって①

東北圏広域地方計画推進室 総括副室長 信原 光夫

(東北地方整備局 建政部 建設産業調整官)

4月1日付けで総括副室長に着任しました信原と申します。よろしくお願いいたします。

3月までは本省国土政策局広域地方政策課に約2年在席しており、1年目は東北圏、2年目は中国圏及び四国圏の広域地方計画に携わっておりました。

現在、人口減少、少子高齢化が進む中で、全国各地域において地方創生に向けて様々な取組みが行われております。この東北圏においても東日本大震災から4年が経過し、未だ復興途中であります。これからの10年に向けて、震災の教訓を活かし国内外をリードする防災先進圏域を目指すとともに、国土のグランドデザイン2050に掲げられた対流促進型国土の形成、コンパクト+ネットワークの実現のため、地域間の連携により豊かな自然、地域資源を活かし、域内生産を高め、交流・定住人口を増やしていくことが重要だと思っております。

本年夏頃を目処に国土形成計画全国計画の閣議決定が予定されており、広域地方計画も同時期には中間整理を行い、年度末には大臣決定の予定ですが、これから本格的な具体の計画内容について作業を進めていくこととなります。

関係機関の皆様方と「東北らしさ」が表れた新しい広域地方計画を策定したいと思いますので、引き続き皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 推進室の一員となって②

東北圏広域地方計画推進室 副室長 奥山 英治

(東北地方整備局 企画部 環境調整官)

4月1日付で副室長に着任しました奥山と申します。よろしくお願いいたします。

3月までは、道路部交通対策課(1年)⇒特定道路工事対策官(1年)と道路関係に特化した業務に携わってきました。が、これからは広く国土に関する総合的見地からの施策計画ということで、皆様方からのご指導をいただき微力ながら取り組んで参りたいと思っていますところです。

現下の東北地方を取り巻く環境は、東日本大震災からの復興と災後展望の不透明さ、深刻な人口減(流出)と高齢化、経済・産業・観光進展の鈍化、社会基盤の老朽化等、さまざまな課題を抱えているところです。そのような中において、東北圏の発展、そして、これまでの多大なる震災支援に対する謝意のカタチとして、東北圏らしさと希望ある将来像の実現に向け、有識者・各関係機関等々の皆様方からのご支援をいただきながら取り組んで参りますので、引き続きご協力をいただきますようお願い申し上げます。

## 推進室の一員となって③

東北圏広域地方計画推進室 副室長 伊藤 祐二

(東北運輸局 企画観光部 計画調整官)

4月1日付けで副室長に着任しました伊藤です。どうぞよろしくお願いいたします。

企画観光部は平成20、21年の国際観光課以来で、久々に観光関係業務に携わることとなりました。最近の観光を巡る状況をみますと、当時と大きく様変わりして、確か当時は835万人位かと記憶していますが、昨年、我が国を訪れた外国人旅行者数は1300万人を達成し、2020年までには2000万人を目指すまでになっています。

しかしながら、ここ東北地域では、外国人旅行者の宿泊者数は緩やかな回復の兆しはみられるものの、未だ震災前の水準までに達していないことから、東北観光推進機構はじめ自治体、その他多くの観光関係者と連携して、観光による震災からの復興を推進してるところです。

ここ榴岡公園の桜も数日前まで満開でしたが、今は花も散り新緑のまぶしい季節となりました。やがて、ツツジが命いっぱいの花を咲かせることでしょう。ここにいると震災のことはつい忘れがちですが、過日、久々に太白山に登り山頂から遠く太平洋を見渡しましたら、以前有った緑豊かな防風林は今も無く、水平線に沿ってただ色褪せた土地が広がっているだけで、未だ震災から復旧していないことに改めて気づかされました。

もとより微力ですが、皆様のお力をお借りし観光による活力ある豊かな東北地域づくりに取り組みたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

## 編集後記

皆様、ゴールデンウィークはどのように過ごされましたか。今年のゴールデンウィークは晴天の日が続き、長期休暇を利用して家族や友人等と遠出された方も多いのではないのでしょうか。

私は、久しぶりに松島観光に行ってきました。今月10日に閉館した松島水族館をはじめ、瑞巖寺や五大堂を拝観し、焼き牡蠣や帆立等の新鮮な海の幸に舌鼓を打ち、久しぶりの松島を満喫することができました。

今月末には秋田市で「東北六魂祭」も開催されますので、ゴールデンウィークでリフレッシュされた方もそうでない方も、ぜひ足を運んでいただき開催を盛り上げましょう。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp